



## 「ユズボーイズ（君ら若造）は、 アジャストメントのパワーを知らなすぎる！」

約 56 年間、休むことなく目の前の一人ひとりにカイロプラクティック・アジャストメントをし続けたガンステッド、通称ドクター・ジー。ある休日、釣りに誘われたガンステッドは、友人の待つボートの前にスーツ姿で登場。照れくさそうにドクター・ジーはこう言った。「クリニックジャケットとセミナー用のスーツしか、持っていないんだ。クリニック・ジャケットよりスーツの方が、釣りに行くにはいいかと思ってね。」  
ぼくは時々考えます。「一体なぜガンステッドはそこまでして、カイロプラクティックに人生全てを捧げることができたのか？」と。  
少年時代患った不治の病からの生還が、彼がカイロプラクターを目指すきっかけだと言われていますが、果たしてそれだけなのでしょうかね？

故郷仙台で、患者さんの数も年々増え、プラクティスの経営も伸びてくると、自分でも知らず知らずのうちにいい気になって、「休みたい。遊びたい。」と思い始めたことがありました。そんなある日の晩、夢の中で怖い顔したドクター・ジーが現れこう言いました。「ドクター。君が遊びに行っても、リラックスしようとしても気がつけば君はいつも患者のことや、プラクティスのことを考えているんじゃないか？ そんなんで本気でバケーションを楽しめるのかい？ 『ドクターとして経験が浅い者』とは、患者のために時間とエネルギーを差し出すことを拒むヤツのことを言うんだよ。まだ遊びたいとか、休みたいとか思っているうちは、君はまだアマチュアだよ。ぼくらカイロプラクターの仕事は、自らの手を使い無私になって他ために奉仕すること—セルフレス・サービスだ。自分のエゴを乗り越え、目の前の患者のイネイトのパワーを受け入れ、休むことなくプラクティスして行くんだよ。そすれば 20、30 年後は素晴らしいドクターになっているよ。プラクティス、プラクティス、プラクティスだ、分かったね、ドクター！」  
目が覚めて、反省しました。

ガンステッドはよく「ユズボーイズ（君ら若造）は、アジャストメントのパワーを知らなすぎる！」とセミナー参加者たちに言っていたそうですが、最近ぼくはこう考えます。長年地道に臨床に励み、患者の中に宿るイネイトの可能性が、アジャストメントをきっかけに解放され、蘇生していくその奇跡を目の当たりにしていくしか、真のパワーは体感できないことをドクター・ジーはいいたかったのだろうか？と。

カイロプラクティックにかかわっていく中で、他界するその数時間前まで、アジャストメントをさせていただいた患者さんが過去数人います。家族単位でケアをさせていただいていると、そういう機会が何度か巡ってくるようです。ドクター・ジーのいう通りアジャストメントして「そっとしておく。」ことがカイロプラクターの役目なので、ただアジャストして帰っただけなのですが、息を引き取った後、オフィスに来た遺族の皆さんは「苦しまず、微笑みながら眠るように息を引き取りました。」と報告してくれまし

た。背中を通る生命力の流れをスムーズにしてあげると、次の人生への旅立ちも「スムーズに」できるのでしょうか？

仙台でプラクティスをはじめて早 8 年になりますが、毎週アジャストメントを受けてライフスタイルや考え方が変わったと言ってくれる患者さんたちに支えられて今があります。彼らに良いドクターになるように育ててもらっているような気がします。きっとドクター・ジーにもこういわれるでしょう。「アジャストメントのパワー」が一番分かっていないのは、実はぼくなんだと。

(カイロタイムズ 2017 年 8 月 110 号より)